

晴れの国おかやま

くらしき地域 普及指導センターだより2017

人づくり
産地づくり
ブランドづくり



©岡山県「ももっち・うらっち」

岡山県備中県民局農林水産事業部
備南広域農業普及指導センター 農畜産物生産課

目 次

●特集

(1) 力強いもも産地を目指して……………1～3

●力入れています！

(1) 田んぼの地力に応じた施肥ができる田植機です……………4

(2) 法人1年生、がんばってます！……………4

(3) 情報のやりとりが大事な糧……………5

(4) シャインマスカットの品質をもっと高めよう！……………5

(5)「連島ごぼう」G I 登録でさらなる躍進へ！……………6

(6) 高品質な金時にんじん栽培を目指しています……………6

(7) 天敵を味方に！いちごの新技术実証中……………7

(8) スイートピー落蕾軽減技術の取り組み……………7

(9) 6次産業化実現にむけてステップアップ！……………8

(10) 意欲ある農業の担い手を支援します！……………8

(11) 農業をしたい若者 集まれ！！……………9

(12) 初心に帰る（良質堆肥生産研修会）……………9

●ご存じですか

(1) 経営改善！まずは青色申告から……………10

(2) G A Pに組み込みませんか？……………10

●受賞おめでとうございます

(1) 岡山県農林漁業近代化表彰……………11

(2) 農林漁業功労者表彰 知事表彰……………12

●はじめまして！新農業士です……………12

●新しく農業始めます！……………13

〈表紙写真の説明〉

(左上) (農) 上楨谷営農組合の田植え

(左下) もも合同研究会

(右上) 船穂町ぶどう部会初心者講習会

(右中) きびじ後継者クラブプロジェクト活動打ち合わせ

(右下) 倉敷地方施設いちご研究会現地研修会

〈裏紙写真の説明〉

(左上) 連島ごぼう出発式

(左下) 病害診断

(右上) 6次化試作品

(右下) いちご研修会

特集 力強いもも産地を目指して

倉敷地域のももは、J A岡山西玉島北園芸協会もも部会、浅原園芸組合、吉備路もも出荷組合、総社もも生産組合の4産地があり、栽培面積、販売金額ともに県全体の約3分の1を占めています。一方、各産地とも生産者の高齢化が進み、栽培者数、栽培面積の減少など産地力の低下が懸念され、新規就農者の確保や晩生品種導入による大規模経営体の育成などが課題になっています。そこで、普及指導センターでは、本年度からトップ重点課題に位置づけ、産地間連携を強化した広域活動で効率的・効果的な普及活動を進めています。

1 産地間の連携で活動強化

各産地はそれぞれに推進品種、販売戦略に特徴がありブランド化が進んでいます。一方で、担い手対策や雇用の確保など共通の課題も多いため産地間の連携強化を図っています。

(1) 連携会議の開催

産地代表者、市、J A、県の担当で、各産地の課題を把握し、問題解決に向けた活動や産地間が連携した活動について定期的に検討を行っています。その結果、新規栽培者等を対象とした研究会、研修会、各種アンケートなど、今年から新たな連携活動が始まりました。

他産地の意見に刺激を受けただけでなく、関係機関との連携も密になり、幅広い活動が今後期待できます。

(2) 若手研究会の開催

就農後5年以下の生産者22名と就農希望者の実務研修生13名を対象に秋季せんだと冬季せんだを中心に3回の研究会を開催しました。

それぞれの意見を出し合える様に、検討の時間を多く取りました。初めての交流にも関わらず参加したメンバーは誰もが同じ夢を抱いているため、熱心に交流が進み有意義な研究会となりました。

アンケート結果では、「他産地との交流ができた」、「同じ立場での意見が聞けた」、「研修先と異なる樹の作り方が学べた」などの感想とともに、継続して欲しいとの希望が多いことから、来年は回数を増やして行う予定です。



連携会議の様子



研究会（2回目）の様子



研究会（3回目）の様子

特集 力強いもも産地を目指して

(3) 研修会の開催

12月11日にJ A岡山西本店会議室で生産者120名の参加のもと研修会を開催しました。研修会では、調査ほの結果報告、担い手確保育成・販売戦略を中心とした優良事例発表、近年増加しているイノシシの対策方法を学びました。

各産地が連携することで、今まで難しかった研究会や研修会の合同開催が可能となり、多くの生産者が参加しました。また、産地間で交流が深まり、担い手の早期育成や産地課題の早期解決につながると考えられます。

2 白皇（はくおう）、白露（はくろ）の導入検討

産地によって推進している品種が一部異なりますが、晩生品種は「恵白」や「冬桃がたり」に取り組んでいます。この2品種は、倉敷管内以外に導入が少なく、栽培技術も確立ができていないため、今後も調査を継続して行っていきます。また、岡山県が育成した白皇（岡山PEH7号）、白露（岡山PEH8号）が試験的に導入され、今年が3年目で初収穫を迎えました。そこで生産者の協力のもと調査ほを設置し、品種検討を始めました。ただし、今回の調査樹は3年生の若木のため、今後も継続して調査を行い、導入を検討します。

(1) 白皇・白露の品種特性について

「白皇」の親は、「おかやま夢白桃」と「白麗」で果実重300～350g、糖度15～17度で成熟期が8月中下旬となる品種で、糖度が高く渋みが少ないのが特徴です。

「白露」は、清水白桃の自然交雑で、果実重350～450g、糖度13～16度で成熟期が9月上旬となる品種で、大玉で糖度が高くさわやかな酸味があるのが特徴です。

(2) 白皇の調査結果から

「白皇」の対照品種としては、同一ほ場にあり、同じ樹齢で、収穫時期がほぼ重なると考えられる「瀬戸内白桃」と比較検討しました。

開花始めは、両品種とも清水白桃に比べ2日早く、満開日は1日早い4月7日でした。「瀬戸内白桃」は、晩生品種の中ではやや小玉傾向の品種ですが、「白皇」も今回の調査では小玉になりました。また、糖度は高く食味も良好となりましたが、一部で果



白露の開花状況（4月7日）



白皇の袋掛け状況（6月27日）

梗内亀裂小果が発生しました。収穫期は「瀬戸内白桃」より数日早く、樹姿は弱せん定・少肥栽培では、非常に横に広がりやすい形でした。

(3) 白露の調査結果から

「白露」の対照品種としては、同一ほ場にあり、同じ樹齢で、収穫時期がほぼ重なると考えられる「恵白」と比較検討しました。

開花始めは、両品種とも清水白桃に比べ2日早く、満開日は1日早い4月7日でした。「恵白」に比べるとやや小さいものの、3年生で平均300gを超え、大玉の品種と考えられました。実止まりがやや悪いことや収穫期の果皮色に青みが残ることから摘らい程度や袋の種類の検討が必要と考えられました。平均糖度は、15.3度でしたが、少し渋みの残る果実がありました。収穫期は、「恵白」とほぼ同じでした。



白露の収穫果実 (左：茶黒1重有底袋、右：白黒1重無底袋)

	白皇	瀬戸内白桃	白露	恵白
満開期	4月7日	4月7日	4月7日	4月7日
果実重	178.1g	202.7g	302.6g	336.5g
糖度	17.6度	13.5度	15.3度	20.0度
収穫期	8月18日 (適熟)	8月18日 (やや早取り)	9月1日 (やや早取り)	9月1日 (やや早取り)
袋掛け数	163枚	148枚	57枚	160枚

3 その他の活動

(1) 産地力強化に向けた活動について

新規栽培者が無理なく規模を拡大するためには、どのような経過で規模拡大や機械導入を図るかについて、大規模経営を行っている生産者にアンケート調査を行いました。今後、育成モデルを作成し、規模拡大志向生産者を支援していきます。

また、雇用確保に向けた活動として、被雇用者に対しアンケート調査を行い、現状を把握しました。今後、必要に応じて雇用を活用できるシステムづくりを関係機関と連携して検討していきます。

(2) PR活動支援

各生産組織では、独自に食育活動や販売促進活動などPR活動を行っており、普及指導センターでは、そのような活動に対し支援を行っています。



各種 PR 活動

力入れています！

田んぼの地力に応じた施肥ができる田植機です

倉敷地方稲作研究会（倉敷市・総社市）

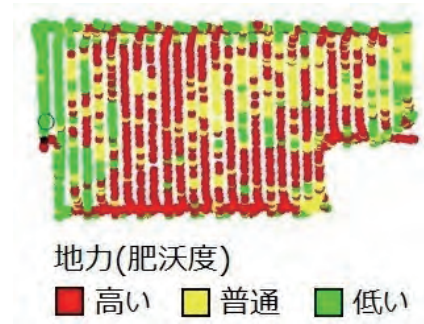
最近、小規模水田の畦畔を除去し、1枚の大きな水田にする例が増えていますが、困るのは水田の地力差です。2枚の水田の地力の差が大きいと施肥の加減が難しく、生産が不安定になりがちです。そこで、地力に応じた施肥を自動的に行う可変施肥田植機が有効です。可変施肥田植機は、田植えをしながら水田の地力と作土の深さをリアルタイムで測り、施肥量を自動で調整できる田植機です。普及指導センターではこのようなICTを活用した効率的な生産方式を推進します。



タブレットで施肥量設定



田植え作業



ほ場肥沃度マップ

法人1年生、がんばってます！

農事組合法人上楨谷営農組合（総社市）

上楨谷営農組合は平成29年5月に法人設立した営農組織です。組合では現在「何をすればいいのか。自分たちの強みは何か。今後どうなっていきたいのか。」など、将来の営農ビジョンを策定するとともに、栽培管理や経営管理について組合員間で情報共有をしながら法人化1年目の活動に取り組んでいます。

普及指導センターでは経営管理能力向上のための研修会の開催や、水稻業務用多収性品種やササゲなどの新規作目の導入検討を行い、組合の活動を支援しています。



法人設立総会



育苗管理指導

力を入れています！

情報のやりとりが大事な糧

吉備路水田農業大規模経営体ネットワーク（倉敷市・総社市）

平成25年に集落営農組織と個別経営体で組織した吉備路ネットワークの活動も今年で4年目を迎えています。定例会などでの情報交換を通じて会員相互の交流が深まり、作業受託などの取り組みも自主的に進んでいます。その結果、飼料用SGSや稲わら収集など、個別経営体では困難な取り組みも定着し、会員の所得向上に役立っています。また情報交換を重ねるなかで、ほ場ごとに作業内容や進捗状況を記録できるほ場管理システムに多くの経営体が興味を持ち、現在3経営体が取り組んでいます。普及指導センターでは会員が求める情報を素早く提供し、営農活動に生かせるよう努めています。



作業受託による稲わら収集



現地研修会



ほ場管理システム導入支援

シャインマスカットの品質をもっと高めよう！

J A岡山西玉島北園芸協会ぶどう部会、船穂町ぶどう部会、真備ぶどう生産組合、秦果樹生産組合（倉敷市、総社市）

シャインマスカットは需要が高く栽培面積が拡大していますが、基本技術の浸透が不十分で、加温栽培では糖度上昇にも課題があります。そこで、今年度は産地間の連携を進め、部会の枠を越えた研修会を開催して技術習得を進めるとともに、試験ほを設置して課題解決のヒントを探りました。

研修会は8月に開催し、各産地から70名が参加して、農業研究所の園地視察と赤坂ぶどう部会の取組（GAPや誉乃AKASAKA）について研修しました。

試験ほは、加温ハウスの糖度上昇を目的に、反射マルチを4か所設置（1か所は蛍光灯を設置）しました。糖度には園地差がありましたが、反射マルチを設置すると無設置と同等以上の糖度になりました。



農業研究所の園地視察

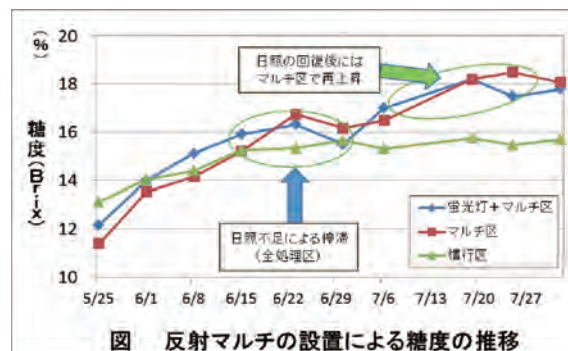


図 反射マルチの設置による糖度の推移

力を入れています！

「連島ごぼう」GI登録でさらなる躍進へ！

JA倉敷かさや東部出荷組合（倉敷市）

平成28年12月7日、「連島ごぼう」が地域で育まれた伝統と特性を有する農林水産物や食品を独自のブランドとして、国が認証し登録する「地理的表示（GI）保護制度」に岡山県内で初めて登録されました。

これを契機に出荷資材を一新し、組合一丸となって高品質生産、販売促進活動や消費者を招いた収穫体験に取り組んでいます。普及指導センターでは、3月下旬の端境期出荷に向けた取り組みや連作障害対策、消費拡大等の取り組みを支援しています。



一新した出荷資材は大好評！



齋藤農林水産大臣も「連島ごぼう」に舌鼓！
（GIフェスティバルにて）

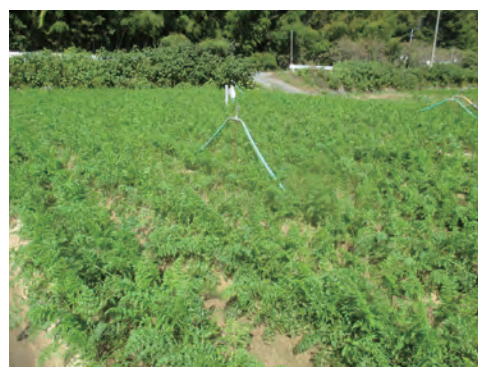
高品質な金時にんじん栽培を目指しています

柳井原ほ場整備協議会（倉敷市）

倉敷市船穂町柳井原地区は、金時にんじんと春大根の産地で、特に金時にんじんは全国2位の出荷量となっています。平成30年度から小田川合流地点付け替え工事に伴い基盤整備が行われます。普及指導センターでは、基盤整備の試作ほ場で重機により固まった土壌の改善方法や金時にんじん栽培の試作を行い、生育状況の確認を行うなど産地維持に向けた支援を行っています。



土壌硬度の調査



試作ほでの金時にんじん栽培支援

天敵を味方に！いちごの新技术実証中

倉敷地方施設いちご研究会（倉敷市、総社市）

いちご栽培の収穫時期にハダニ類が発生すると、使える農薬が限られており、防除が問題となっています。

当研究会では、従来から天敵を用いた対策を行っていましたが、「バンカーシート」という新たな天敵資材を用い、収穫時期のハダニ類の対策について実証を行っています。「バンカーシート」は、天敵温存のシートがセットになっており、従来の資材よりも効果が長持ちするとされています。普及指導センターでは、天敵の利用効果が高まる放飼時期、方法について情報提供を行い、安全・安心で美味しいいちご生産に向けて支援しています。



天敵が封入されているパック



バンカーシート設置の様子

スイートピー落蕾軽減技術の取り組み

J A 岡山西船穂町花き部会（倉敷市）

倉敷市船穂町のスイートピーは、倉敷ブランド（マル船スイートピー）として、市場の評価が非常に高く、11月～4月上旬まで出荷されています。しかし、初冬季（12月）までの高夜温や日照不足等により落蕾が発生し、生産上の大きな課題となっています。

部会では、秋季にヒートポンプを用いた夜間冷房実証を行い、落蕾軽減効果を確認しており、3戸でヒートポンプが導入されています。

また、各種研修会や巡回講習を実施し、若手とベテランで活発な意見交換を行い、草勢調節技術の修得を図っており、落蕾率の低減につながっています。



ヒートポンプによる現地実証



(左) 落蕾 (右) 正常



落蕾軽減技術研修会

力を入れていきます！

6次産業化実現にむけてステップアップ！

6次産業化研修会受講生（倉敷・井笠地域）

「6次産業化」とは、農家が農業生産からその生産物を使った加工品を作り、さらに販売まで手がける活動のことです。この6次産業化に関心がある農家を対象に、今年度も「6次産業化研修会」を開催しました。研修会は3回シリーズで受講生は18人です。

第1回（8/31）は、販売するための商品づくりについての基礎知識と野菜のピクルス漬けの方法、第2回（10/25）は、衛生的な加工施設を作る際のポイントと消費者目線の商品づくり、第3回（12/6）は商品の原価把握と販売計画の作成方法を学びました。

この研修会は平成27年度から継続しており、研修生の中には、自家産米の商品開発や農家レストラン等の夢を持つ人もあり、6次産業化が実現されることを期待しています。



ピクルスづくりの実習

意欲ある農業の担い手を支援します！

認定農業者等（倉敷・井笠地域）

普及指導センターは、認定農業者や新規就農者、集落営農組織等に対し経営研修会の開催、制度資金借受相談、認定農業者の経営改善計画作成支援等を行っています。

今年度は、集落営農組織が複合経営をしている作物別の経営分析、集落営農組織などが法人化する際の税務管理、雇用活用のための労務管理知識などをテーマに研修会を開催しました。また、経営改善計画作成支援など、様々な農業経営体の要望に応じた経営改善指導を行っています。



パソコン簿記の操作を学ぶ研修受講者



経営分析のための聞き取り調査

力入れています！

農業をしたい若者 集まれ!!

新規就農希望者（管内全域）

倉敷地域の次世代の農業を担う人材確保に向け、関係機関と連携して、晴れの国おかやま就農相談会や新・農業人フェア（東京都・大阪府）での就農相談、受け入れ産地での現地就農相談、倉敷地域就農オリエンテーションの開催（6/17・18、10/14）等を行い、新規就農者の確保に努めています。

その結果、本年度は14名（倉敷市：もも4名、ぶどう2名、総社市：もも3名、ぶどう3名、なす2名）の方が農業体験研修を行うこととなりました。1か月の農業体験研修修了後は2年以内の実務研修を行い、各産地で就農する予定です。



新・農業人フェア（東京都）での就農相談



就農オリエンテーション

初心に帰る（良質堆肥生産研修会）

備南酪農組合（倉敷市、総社市）

7月12日、倉敷市と総社市の酪農家（9戸）が所属する備南酪農組合と倉敷地方農業技術者連絡協議会は、良質堆肥生産技術についての研修会を開催しました。

農家数が減少するなか、他地域の農家も含め20名を超える参加がありました。

農業大学校講師を招き「良質堆肥生産技術」について、「堆肥の品質により作物の根の張り方が違う」ことや、「ミミズの活力も変わってくる」ことなど基本的な部分の研修を行いました。また、耕種品目での堆肥利用について活発な意見交換があり、有意義な会となりました。



賑やかな研修会の様子

ご存じですか？

経営改善！ まずは青色申告から・・・

青色申告には次のようなメリットがあります。

- 1 複式簿記で65万円、簡易帳簿で10万円を所得控除できます。
*複式簿記で収支・財務を正しく把握しましょう。
- 2 青色申告は専従者給与額の上限がありません（103万円以上は専従者の所得申告が必要）。白色申告では配偶者85万円（他の家族50万円）までです。
*家族の報酬を確保し、賢く節税を！
- 3 農業所得の赤字を3年間（法人は9年間）繰越しできます。
*中長期的視点で経営を安定化しましょう。
- 4 また、農業者年金の保険料補助、平成31年から始まる収入保険制度に加入するには青色申告が必要となります。

＜所得税額の速算表＞		所得税額=A×B-C	
課税される所得金額(A)	税率(B)	控除額(C)	
195万円以下	5%	0円	
195万円超 330万円以下	10%	97,500円	
330万円超 695万円以下	20%	427,500円	
695万円超 900万円以上	23%	636,000円	
900万円超 1,800万円以上	33%	1,536,000円	

※この他にも様々な特典があります。興味がある方、青申を始めたい方は普及指導センターへご相談ください。

GAPに取り組みませんか？

2020年東京オリンピック・パラリンピックの農産物調達基準にGAP認証が要件となり、注目を集めています。GAPはこれまでなら当たり前に行っている作業を「見える化」して、農薬や機械使用によるうっかりミスや事故を防止していこう、農薬を減らす工夫や適量施肥で環境に配慮した栽培をしていこうというものです。

平成28年度末現在、県内44産地、倉敷地区では4産地で取り組み始めています。できるところから「見える化」して、消費者から求められる安全安心な農作物を提供していきましょう。



GAP取り組み手順



受賞おめでとうございます

岡山県農林漁業近代化表彰

農事組合法人原営農組合（総社市）

平成12年からの基盤整備を契機に任意組織「原営農組合」を結成、平成24年には管内で3番目となる法人組織「農事組合法人原営農組合」を立ち上げ、大型機械を活用した継続的な営農活動を行っています。

水稲栽培では平成20年から省力低コスト技術である湛水直播栽培に取り組んでおり、稲WCSを含む水稲約19haのほぼ全面積で導入しています。

生産調整は稲WCSや飼料用米で対応しており、交付金を有効に活用しています。稲WCS用専用品種である「たちすずか」を導入したことで生産量が増加し、所得の向上が図られています。

さらに平成29年からはPMS（ほ場管理システム）にも取り組んでいます。PMSとは農研機構が開発したほ場一筆ごとに栽培情報や作業情報などが地図上で管理、蓄積できるシステムです。このシステムの活用でオペレーターにも理解しやすい作業体系やほ場管理の記録を残し、スムーズな営農情報の伝達に役立つことを期待しています。

また、そばの栽培にも取り組んでおり、収穫したそばで祭りを開催しており、そば打ち体験や地元農産物のPRなど、市外からの来訪者にも好評です。

このような活動が認められ、表彰されました。



湛水直播き栽培



稲WCSの収穫作業

農林漁業功労者表彰 知事表彰

仮谷真戊留 さん（総社市）

就農と同時に、キャンベルから加温マスカット・オブ・アレキサンドリア栽培への転換に取り組み、現在は加温アレキの専作経営を行っています。土壌改良や収穫後の管理等を徹底することにより、高品質なアレキ栽培を実践しており、果樹農家や市場関係者から高い評価を得ています。地域の新規就農者等への助言や指導といった担い手育成にも尽力し、農業振興に貢献した功績は極めて大きく、県民の模範になっています。



はじめまして！新農業士です

難波 明朗 さん（倉敷市）

経営作目 乳牛・野菜



児島地区で乳牛と野菜栽培をされており、地域で唯一の酪農経営者として、地元幼稚園児に搾乳見学を通じて酪農への理解を深める活動にも取り組んでおられます。



佐藤 元子 さん（倉敷市）

経営作目 野菜（れんこん）



昭和57年かられんこん栽培を開始され、長期出荷栽培に取り組んでおられます。中学生の体験学習に協力されるなど地域の特性を活かしたれんこん栽培と産地振興に貢献されています。





神原真紀子さん

〔倉敷市、ぶどう〕
安心して美味しいぶどう
を作れるように頑張ります。



小松原恵次さん

〔倉敷市、アスパラガス〕
アスパラガスの安定生産、
安定出荷に努めます。



近藤弘幸さん

〔倉敷市、ぶどう〕
これから一生懸命頑
張っていきます。



田淵太士さん

〔倉敷市、ぶどう〕
楽しみながらぶどうを
作ります。



鳥越一史さん

〔総社市、水稻・ぶどう〕
栽培にこだわった農産
物を届けたいです。



中島喜久夫さん

〔倉敷市、もも〕
地域に愛される農家にな
ります。



日笠裕也さん

〔倉敷市、もも〕
産地の発展のために頑
張ります。

**新しく農業
始めます！
どうぞ
よろしく
お願いします**



室山翔太郎さん

〔倉敷市、もも〕
産地を盛り上げられる
ように、微力ながら頑
張ります。



目黒裕樹さん

〔倉敷市、スイートピー〕
スイートピーの安定出
荷を目指します。



岡田幸久さん

〔総社市、もも〕
研修で勉強したことを
活かして良いももを沢山
作ってみたいです。



松本 卓さん

〔総社市、ぶどう〕
地域の担い手として頑
張ります。

*平成28年11月以降、新規就農された方を掲載しています。(行政順、五十音順)



岡山県備中県民局農林水産事業部

備南広域農業普及指導センター

〒710-8530 岡山県倉敷市羽島 1083 番地

TEL (086) 434-7047 (革新農業推進班)

(086) 434-7048 (担い手・農産班)

(086) 434-7049 (園芸班)

FAX (086) 421-8253

E-mail kura-fukyu@pref.okayama.lg.jp

HP <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/95/>

農畜産物生産課

TEL (086) 434-7033